

令和6年度〔自己評価報告書〕

学校番号	学校名	校長名
14	川崎市立向小学校	若狭 美加

学校教育目標	今年度の重点目標
<p>○すすんで学ぶ子 確かな学力の育成 ○自ら学び、自ら考える子 ○学び合い、高め合う子</p> <p>○思いやりの心をもつ子 豊かな心の育成 ○相手の気持ちを考える子 ○お互いのよさを認め合う子</p> <p>○健やかに育つ子 健やかな心身の育成 ○心も体も大切にする子 ○安心・安全に生活する子</p>	<p>○学習指導の充実 学びの中で自らの成長を実感できる学校</p> <p>○心の教育の推進 人とのかかわりの中で心を育む学校</p> <p>○健康・安全教育の推進 子ども達の健康・安全を大切にしている学校</p> <p>○地域に開かれた魅力ある学校づくり 地域・保護者とともに子どもを育てる学校</p>

評価項目	具体的な取組	成果と課題	具体的な改善策
1 学習指導の充実	主体的な学びに向けての授業改善 個別最適な学びと協働的な学びの実現	校内研究を軸に「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて授業改善を推進してきた。主体的な学びについて低・中・高学年部会で話し合うことで、児童の成長や各教科の系統性を意識することができた。児童自ら「知りたい」「話し合いたい」「もっと追求したい」という意欲が見られるようになって来た。今後も主体的な学びにつながる手立てや系統についてさらに追求していく。児童の主体的な学びを考えていく中で、「個別最適な学び」「協働的な学び」も一緒に考えていくことになった。学年に応じた一斉指導とのバランスを今後は全職員でさらに意識して授業を組み立てていく必要がある。	「主体的な学び」の系統性について、再度確認を行い、新年度をスタートしていく。指導と児童の主体の兼ね合いを考慮していく。授業改善においては、6年間の学びの系統性を意識しながら取り組めるよう努める。前学年での学びだけでなく、次の学年にどのようなつながっていくかを考えていく中で、細かな指導や支援についても全体で共有していく。基礎基本の定着を図っていくことが本校の大きな課題の一つである。一人一人の児童の実態把握に加えて、取り出し指導や複数体制での指導などを行っていく。
	校内・校外における研修の充実	研修部会を中心に職員が主体的に研修を組み立てた。必修研修以外にも各自のニーズに応じた研修に職員が主体的に取り組んだ。校外における研修で学んできたことも伝達しあい、職員同士が深め合っていた。	現在の研修の体制を軸にししながら、より幅広く職員の資質向上につながる内容に取り組んでいきたい。校外での研修にも積極的に参加できるよう体制を整えていく。
2 心の教育の推進	安心して楽しく過ごせる学校づくり	高学年を中心に「学校が安心安全で楽しくなる」ことを意識した活動が計画・実施されるようになってきた。児童の思いに寄り添い、支援していくために職員が様々な工夫を行っていた。学校という枠の中で児童に任せる部分と指導する部分を全職員で共通認識しながら取り組んでいきたい。	児童が主体的に活動できる環境づくりを引き続き意識していく。様々な活動の計画の段階から、学校という枠の中で児童に任せる部分と指導する部分を全職員で共通認識しながら、実践するよう心がけていく。
	人権尊重教育・キャリア在り方生き方教育の充実	共生共育プログラムの協力校として、効果測定の読み取りやエクササイズへの取組、キャリア在り方生き方ノート、キャリアパスポートの活用を学校内で共通認識して行ってきた。学校教育全体の中で、自分や相手の「思い」を大切にできるように意識してきた。縦割り活動など異学年交流を大切にし、他者を思いやる気持ちとともに活動を通して自己肯定感が高まりも見られた。	共生共育プログラム、キャリア在り方生き方教育などの系統性の整理や改善、内容の充実をさらに検討していく。児童が他者と関わるにより、ありのままの自分が表出でき、それを受け入れてくれる環境、認め合える関係づくりを今後も全職員で意識して、指導・支援を行っていく。
	いじめ・不登校の防止対策の充実	児童指導部会を中心に、細やかに児童の状況の共有を行うことができた。担任1人が抱え込むことのないようCOを中心に養護教諭、管理職とも連携をとることができた。共生共育プログラムや学校生活アンケートの活用により、確実に状況を把握するよう努めた。	いじめ防止基本方針の内容を全職員が意識して指導していくよう年度当初だけでなく、折に触れ確認し、徹底していきたい。不登校等の対応として、学習保障について全職員で確認を行い、ガイドラインを検討する。

3	健康・安全教育の推進	日常的な健康・安全教育の推進(熱中症対策含む)	日常的な保健指導をはじめ、校内の衛生管理を丁寧に行った。熱中症対策は、熱中症指数をもとに屋外等での活動をその都度検討した。児童の心身の不安に対しては養護教諭を中心に情報共有、対応を行った。特に児童の心の状況把握を丁寧に行った。「早寝早起き」については授業でも取り上げ児童が自分事として考えられるよう取り組むことができた。避難訓練は、掃除時間や津波など様々な状況を想定して行った。	今後も熱中症対策は必須と考える。熱中症指数だけでなく具体的な対応も考えていく必要がある。(体育のカリキュラムとの兼ね合いや校外学習など) 日常的な保健指導は「早寝・早起き」は継続しつつ、自分自身の体と心の健康に着目し、食育や運動とも関連付けていきたい。
		体力向上につながる取り組みの充実	体育の学習や休み時間の外遊びの充実に加え、委員会活動を中心とした児童の主体的な活動においても外遊びなど取り組む機会を作り、学校全体で活動の工夫が見られた。中休みの体育館の開放を行い、雨や気温上昇で校庭が使えない時も運動できる機会を作った。栄養職員と連携し、食育にも努めた。	学校全体で「体力の向上」について考え、実践できるよう整備していく。そのためにも委員会活動を中心として外遊び計画などは今後も継続していき、学校全体で取り組めるよう位置づけていく。日常的な健康教育とも関連させながら自分の体力向上を意識づけるような取り組みを行っていく。
		危機管理体制の整備	施設・設備の点検・修繕に努めた。また、校舎再生工事に向けての安全対策を徹底した。未然防止・早期発見・初期対応を確実に行う組織となるため、年間を通じて危機意識を高めるよう努めた。避難所運営会議では、本校独自の対応について地域と情報共有を行うことができた。	風水害における避難所開設準備について職員で話し合いをもつ必要がある。事前の準備や避難所閉鎖後の再開準備について共通認識もち、対応を考えていく。自然災害における安全対策や避難計画の幅をひろげて考えていく。児童が訓練すること、職員研修で行うことなど整理する。
4	地域に開かれた学校	地域の人材・環境を生かした活動	地域学習は、直接地域の人から学ぶ機会を作り学習をすすめてきた。図書館司書を軸として、読み聞かせボランティアなどの活動が軌道に乗ってきている。大島保育園等の幼保小連携を充実させることができた。	地域学習は児童が自ら地域を知って、学ぶ大切な機会である。今年度と同様に地域の方と直接ふれあいて学べるようカリキュラムに位置づけていく。
		地域・保護者との連携	子どもたちのためにできることをしていこうという気持ちをもって、PTA活動を進めてきてくださったことにとても感謝している。子どもたちが喜ぶ秋祭りを計画・実施するなどPTAと学校が連携して取り組めたことに大きな価値を感じる。	PTA役員になる方がなかなか見つからず苦慮されている。役員になられた方への感謝の気持ちを忘れず、連携をしていく。また、相談に乗りながら、持続可能な活動ができるよう業務改善を図っていく。
		地域・保護者への情報公開・情報発信	学校ホームページは最低限の形は整えてきた。再生工事後の様子なども掲載した。今年度から学学校便りと学年便りをあわせて発行した。情報の一本化と共に下校時刻を知らせることができた。向小学校のめざしている方向を理解していただけるよう内容を工夫している。	学校ホームページのさらなる運用を検討していく。ペーパーレス化に伴う情報伝達の方法を考えていく。授業参観や懇談会など直接保護者の方が学校に来ていただける機会を大切にしていく。

学校関係者の評価	今年度の学校運営のまとめ・次年度へ向けて
<ul style="list-style-type: none"> アンケートを通して、向小の経年変化はわかるが、他校との違いがわかるようなものはないのか。 地域に開かれた学校として、ペーパーレスや電話受付時間の不具合はなかったか。(ないと回答) 図書館司書の導入はとてもよかった。 児童の発表から自分たちで進んで考えて、協力していることがよく伝わった。 子どもたちが、自分たちで向っ子の約束や目標の見直しを進めているのはとても素晴らしいと思った。自分たちの勝手な思い出はなく、本当に必要なことを考え、自分たちが守ることを大切にしたい。 児童の主体的な活動を支えているのは、先生方だと感じた。先生方の関わり方や見守り方がよいと思った。 先生方が子どもたちが何ができるのかを考えているから、子どもたちが伸びている。職員集団がダックを組んでいることが大切だと感じた。 保育園でも主体性を大切にしている。中でも経験することを大切にしている。主体性は何でもよいのではなく、環境づくりが大切なのだと感じた。組織力をあげていくヒントをたくさん得られた。 これからも地域素材を生かして行ってほしい。 川崎市制100周年の取組を進んでやっていたよかった。これからもこのことを忘れないでほしい。 運動会でも子どもたちがよく考えてやっていると感じたが、今日の発表で競技なども自分たちで考えていることがよく伝わった。 委員会名が「企画・運営委員会」となっていて、子どもたちが主体的に取り組んでいることが現れていると思った。 	<p>昨年度より秋に運動会を開催しており、学年始まりにゆとりが出てきている。各学年、学級において児童と担任と一緒に1年間の目標を考えていくことができ、落ち着いた雰囲気である。また、今年度は「子どもたちが主体的に学ぶ環境づくり」を学校経営の大きな柱とした。1年間を通して「子どもを主語」に活動に取り組むことができた。校内研修や校内研究を通して、様々な行事や教育活動についても職員で方向性を確認しながら丁寧に取り組むことができた。主体的な学びにつながるよう授業改善を行っていく中で、学校生活全般においての活動すべてにおいて「児童の主体性」を意識した職員の考えや動きが出てきた。高学年を中心に、学校生活がより楽しくなるように、児童が考え、計画し、実践していく、そして教職員がそれを支援していく形が自然と生まれてきている。自分たちで取り組むことは、最後まで責任をもって取り組むということが、児童自らが体得できたのではないかと考える。活動量が増えてしまった部分は否めないが、日々の生活の中でも児童の考えを大切にする担任の姿も多く見られた。学校全体の意欲向上が高まったのは、児童の積極的な態度とその児童の活動を支援する職員の温かな見守りがあってこそだと思う。</p> <p>児童は自主的に様々な教育活動に取り組んでいるが、大きな課題として学習基礎基本の定着ということが引き続き挙げられる。学習に向かう環境は整ってきているが、一人一人の学習への意欲や学んだことを活用していく力には課題がある。来年度は「基礎基本の定着」を図るための個別支援体制を充実させていきたいと考える。</p> <p>本校では全職員が同じ方向をみながら学校運営に関わっており、協力体制がとれている。来年度も職員一人一人の個のやる気や努力を大切にし、この組織力・団結力をさらに高めていけるよう、切磋琢磨していきたい。職員が自己肯定感を高くもち、自己有用感を感じることは、児童に大きな影響を与えることにつながる。そのためにも職員が自らが学校運営に携わっていることを意識しながら、自ら様々なことに動き出せる集団であり続けられるよう努めていきたい。</p>